

南国市では学校週五日制の九月実施に向け、四月に南国市学校週五日制研究委員会(西森善郎委員長)を組織。保護者などへのアンケート調査や環境整備に向けての取組みなどを検討してきましたが、その第一報報告書が作成されましたので、その主な内容をお知らせします。

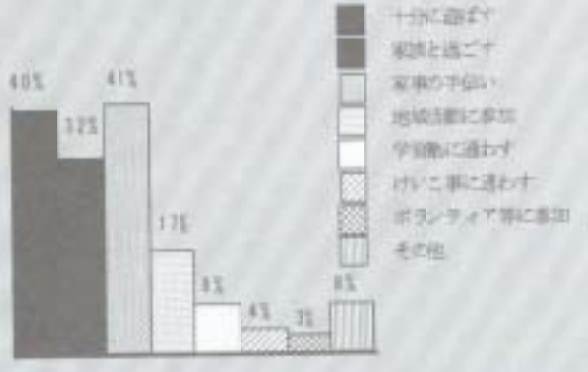


学校週5日制

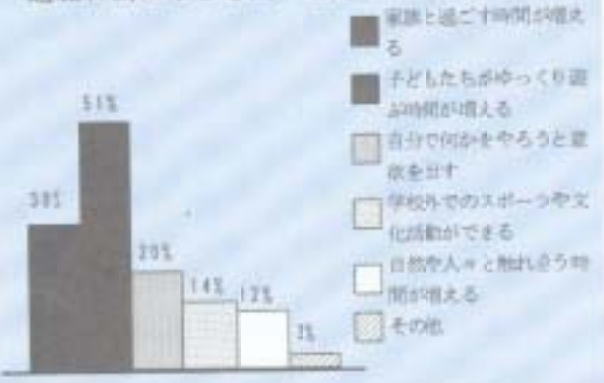
いよいよ9月からスタート

アンケート結果から

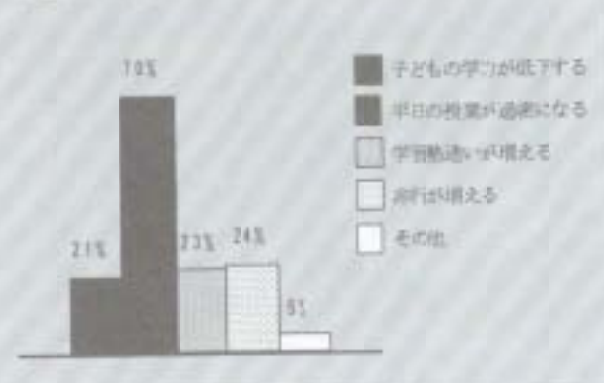
希望する土曜日の過ごし方



週五日制になると良いと思われる点



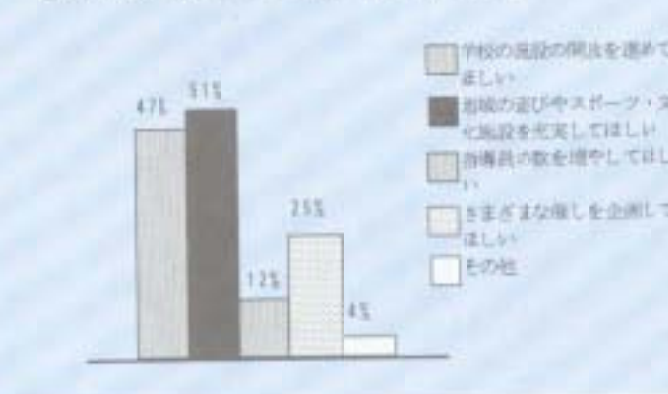
週五日制になると心配と思われる点



アンケートは語る

市内の市立幼稚園、小学校(独自調査を行った大瀬小学校を除く)、中学校の全家庭三千三百三十九戸を対象に五月下旬に実施し、二千八百二十五戸の回答(回収率九十%)が得られました。結果は次のグラフのとおりですが、五日制導入に対する心配な点として幼稚園・小学校の子供をもつ保護者は、学業よりも家に一緒に居てやれないことや生活の変化を心配し、中学生をもつ保護者は、学力の低下や非行化、過度の部活動を心配しています。また、将来の完全週五日制の実施には、どちらかといえは反対も含めると六十三戸の保護者が反対であることが分かりました。

週五日制が始まった場合、希望すること



わたしNO派

▲高知県では、まだまだ土曜休日の企業が少なく、地域社会の受け皿がないと、親のいない子どもたちはファミコンなどでガラガラと過ごしたり、学習塾や習字に通ったりの結果になります。

▲民間の多くの会社が土曜日を休まないのに、家庭の教育力を高めることはできません。

▲休みを増やして主体性を...というなら、各学期ごとの休暇で十分だと思います。

▲高知県の学力は、全国的にも最下位に近いといわれていますが、学校週五日制になれば、学力はどうなるのでしょうか。

▲土曜日の授業分を平日に上乗せされると、毎日の授業内容が過密になってしまわないでしょうか。

▲クラブ、道徳などが削減されるのでは...。それでは、心豊かに、主体的・創造的に生きる力をつけるという制度の趣旨に沿わないように思われます。

▲外国の目を気にするのはなく、日本独自の教育・社会方針でよいと思います。

▲四月から学習内容が変わり、更に難しくなったと聞きました。この上時間数が減ったのでは...。学習について行けない子供が更に多くなるのではないのでしょうか。

変化する社会の中で

文部省は平成四年二月、全国の国立の幼稚園、小学校、中学校などを、九月十二日より毎月第二土曜日を休業日することを決定。この背景には、欧米諸国と比較して長いわが国の労働時間の改善をめざす政府の施策の推進が学校に及んできたとみる事ができます。

学校週五日制は教師の労働時間の短縮の問題を越えて、国際化という大きな流れの中において、わが国の社会のあり方を問いかけるものです。わが国は豊かな社会となり、今後高度情報化、国際化、価値観の多様化、核家族化は進むでしょう。

この時代を生きていく子どもたちは、何事にも挑戦し、たくましく生きることも自己を革新し、社会の向上に努力できる子どもでなければなりません。

学校週五日制が、労働時間をどう短縮するかといった現実から起きていることは確かでも、学校は、あくまでも子どもの側に立ち、教育を行わなければならない。

学校の解放を

これからの教育は、学校を学習の拠点としてではなく、生涯にわたる学習の基礎を養うところとして考えるとともに、学校施設を子どもを含めた地域住民に積極的に開放し、開

ボランティアの賛成を

現代の家族は、家族全員が共有する時間や子どもたちが手伝いをする事などが減少、父親のかかわりも希薄になっていきます。新たに休みとなる土曜日も含め、休日を家族の団らん、自主的な家庭学習、家事手伝いなどの生活体験、ボランティアなどの社会体験、野外活動を通じての自然体験等を実践していくことが望まれます。

そのため、体育館、図書館、公民館などの社会体育・社会教育施設も子どもたちが利用しやすいように整備する必要があります。

また、地域住民から幅広くボランティアとして協力を得るため、ボランティア養成講座やボランティアバンクの整備に努めることが大切です。

アンケートから

私たちはこう考えます

わたしYES派

● 得いものの立場を思いやる事ができ、誰かのため、社会のために奉仕することのすばらしさを感じてほしい。家庭での会話、行動には限度がありますので、地域ごとの企画が必要です。

● 今までは、本来家庭が教えるべきものを学校に頼っていたような感じがします。この機会に、もう一度よく考えて、家庭で教えることをきちんと伝えていきたい。

● 塾通いや非行など、心配されるでしょうが、もっと子どもたちを信用して、子どもに自由な時間を返してやるべきだと思います。ただ、管理するためのものでなく、子どもたちが、自分たちの集りのなかで、地域とかかわって行き、自分たちで育ち合えるような活動が必要ではないでしょうか。

● 現在、学校で行なわれている教育が、理想であるとは思わない。今より休みが多くなって、学力が落ちても構わない。子どもを縛りつけずに、いつも、あちこちで、子供の声があふれてくるような世の中にしてほしい。五日制を導入するからには、もっと良い点を考え付けばして行きましょう。

みんなの声は...



地域社会のウエイトが...

久家正昭さん



久家正昭さん(田村)は子ども会の役員。連也くん(小3)・智幸くん(小1)と一緒に子ども会のキャンプです。「学校週五日制については現状ではどちらかといえれば反対、私は仕事、妻は農業の手伝いなどで子どもと一緒に過ごせません。子ども会などボランティア活動でも子どもも参加し、保護者の参加は低調なのが普通。私も子どもと上手にスキミングを回れるようにと、子ども会の役員を引き受けました。しかし、ボランティアは多忙で、生活への影響もありますね。その分公共施設の開放、例えば、学校のプールなどでの指導員などを充実するなど地域社会を支えてほしいですね。」

施設園芸農家ですので、今に農繁期休日となる土曜日にはハウスなど農業の手伝いなどをしてもらうつもりです。

専業農家の多い地域であり、小さいうちから農業に関わったことで、跡を継いでくれるようになればいいんです。



常光育くん(小5)・日吉町

朝はのんびり出来るのがいい。勉強もゆる〜くり出来るし。でも、暇がありすぎて困るかも。

授業がないし、遊べるからうれしい。勉強するよりも、友達と遊ぶと思う。

大石誠二君(中2) 左右山



萌衣子ちゃん・更衣子ちゃん・雅文くん・多衣子さん

公文理江さん(左)・大埔、山崎友香さん・下野田

私立高なので、直ぐにはないですが、受験競争があるので、休みの土曜日には塾通いが多くなるのでは。学校がある方が気分的に楽しいやないでしょうか。

大埔に住む今井多衣子さんはご主人の研修のため、一昨年の十月から昨年の八月まで一家でアメリカ生活。「五日制は基本的には賛成です。しかし、そのためには社会全体が土曜日休日にならなければ、アメリカでは土曜日に働く人はまれ。夫も向こうにいる間は土曜日は休みで、家族でいろいろなところ遊びに行きました。子供も楽しかったようです。」

しかし、帰ってくるもとの仕事賃の生活に、仕事は完全週休二日制なのに、研究のため出勤しているのが現実です。

週五日制を個人として取り組みのには限界がありますね。社会全体として仕事に対する考え方を変えなければ、アメリカでは催しものもたくさんあつて、休日には美しいことがいっぱい。また、休日以外の公共サービスも、映画、ピアノなどの音楽、スポーツのレクレーションなどが多彩、好きなものを自由に、しかもとても安い料金で受けることができます。

広報でももう少し市民の楽しめる催しもののお知らせをしてもらいたいですね。」